

長崎検定

一級さん

Vol.4

「長崎検定」受験のススメ 鹿山 絵理さん

合格率四・八％……。長崎歴史文化観光
検定の最難関を突破した一級ホルダー。
その卓越した識見には、なにやら「一言
ありそう」です。
ざっくばらんに寄稿願いました。

〈長崎検定受験のきっかけ〉

私は、長崎生まれ長崎育ちなのに、長崎のことって意外と知らない。かといって、長崎学講座って、難しそうだし、時間も自由にとれないし……と思いつつ、時々長崎関係の本を読んでみたり、という日々を過ごしていた時に、第二回「長崎歴史文化観光検定」なるものが実施されることを知り、さっそく発売当日にテキストを購入。開いてみると、あららら。予想していたとはいえ、長崎弁の章を中心に、二割程度の正解率でした。でも、クイズ感覚で楽しめる編集で、「ヘー、そうなんだ」「ヘー、スゴいなあ」等と「ヘー」を繰り返しつつ、テキストを読み進めていくことができたので、受験することにしました。

〈日本史は苦手〉

でもそのうちに、訳がわからないことが増えていきました。何せ私は高校時代に、漢字を覚えるのがイヤだからという理由で世界史を選択し、それでも中国史でやっぱり漢字に

泣かされ、というレベルなので。そこでテキストに載っていた参考文献を読む努力を始めました。それでもわからないことは増える一方で、長崎奉行と長崎代官、偉いのはどっち？とか。多分歴史好きの人にとっては、常識的なこともわからないままで、受験日を迎え、忘れもない「祭酒」の意味が解らずに間違っ、受験後「祭酒」って何？とムキになって調べたり。受験が終わっても、勉強は終わらなかつたのです。

魅力に気付けば、歴史的・文化的遺産の重要性や活用方法、そして何より、長崎の活性化についての、多様で有用なアイデアが多く発信され、長崎の街がより元気で住みやすい場所へと進化し続けていくことができるのではないのでしょうか。

〈そして、気付いたこと〉

私にとって、長崎検定の勉強を通して、長崎の歴史や文化について学ぶことは、長崎の魅力を発見することだったのです。かつての長崎人の姿に、感動したり、感心したり、現代にも通じる先見の明に驚いたり、の連続でした。

でもやがて、今の私たち長崎人、これでもいいの？と思うようになりました。私にはこれといったアイデアも思いつきませんが、多くの人が、長崎検定受験のための勉強を通して、長崎の

〈レッツ・トライ〉

まずは自分の街について知ること。そのために、長崎検定受験は必ず役に立ちます。私は今後も多くの人に、長崎検定にチャレンジしてもらいたいと思っています。



【プロフィール】
鹿山 絵理(しかやま えり)
長崎市生まれ。長崎市在住44年。
長女は長崎検 番芸子・こ丸さん